

ラーム・エマニュエル駐日米国大使が来校

特別講演会を開催

4月27日、ラーム・エマニュエル大使館の懇親会で大使とマニエル駐日米国大使懇談した際に来訪を要請が本学に訪れ、2号館国際会議場で特別講演が行われた。講演会は、職員合わせて約150人が道佳明学長が昨年、米国参加した。



学生の質問に答えるエマニュエル大使

学生とのQ&Aセッション

講演のテーマは、「Economic Coercion 経済的威圧」。エマニュエル大使はG7サミットの主要な議題となる経済的な威圧行為の現状について解説し、この困難な課題解決のためには各国が団結して取り組まなくてはならないと述べた。

講演会の後半は森下哲朗グローバル推進担当副学長の進行による参加者とのQ&Aセッションが行われ、学生たちから「経済的威圧について我々はどうに対処すべきか」「大学が果たすべき役割は何か」などの質問が次々と寄せられた。ひとつひとつの質問に大使から丁寧な回答があり、参加者にとって、喫緊のグローバル課題についてともに考える貴重な機会となった。

カトリック・イエズス会センター主催企画展

長崎から世界へ「平和を」

永井隆・緑夫妻のメッセージなどを紹介



6号館1階展示スペース2において、カトリック・イエズス会センター主催の企画展「長崎から世界へ『平和を』」が、被爆者たちの

医師 永井隆と妻 緑か桜の2世である。『永井のメッセージ』が開催された。永井医師が70年以上前に私財を投じて長崎市浦上地区に植えた『永井千本桜』の2世である。『永井のメッセージ』が、永井医師が70年以上前に私財を投じて長崎市浦上地区に植えた『永井千本桜』の2世である。『永井のメッセージ』が、永井医師が70年以上前に私財を投じて長崎市浦上地区に植えた『永井千本桜』の2世である。

永井医師の書や絵、著書も展示

ため、献身的な救助活動を行い、数多くの著作を残した医学者である永井隆。永井夫妻の長男の誠一氏は、本学新聞学部の卒業生だ。本学との絆を象徴するものが、北門外の右横に植樹された『永井千本桜』の2世である。『永井のメッセージ』が、永井医師が70年以上前に私財を投じて長崎市浦上地区に植えた『永井千本桜』の2世である。

161

マニエル・アモロス名誉教授逝去

4月23日、皮膚がんのため死去。93歳。

1930年生まれ。62歳。1938年生まれ。66歳。

00年9月生命科学研究所長、00年4月03年3月学事部長補佐、02年4月03年3月社会正義研究所長を務めた。

令和5年 春の叙勲

3人の名誉教授が受章

4月29日、令和5年春の叙勲受章者が発表され、滝澤正名誉教授が瑞



滝澤名誉教授

■滝澤正名誉教授
1946年生まれ。76年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程を修了。76年4月に本学法学部助教として着任。84年同教授。2004年法



村瀬名誉教授

■村瀬信也名誉教授
99年から02年まで法学部部長、03年から04年および09年から11年まで図書館長、04年から08年まで法科大学院長、11年から14年まで学長および学校法人上智学院学務担当理事、13年短期大学部学



私市名誉教授

■私市正年名誉教授
1948年生まれ。81年中央大学大学院文学研究科博士課程満期退学。85年4月に本学外国語学部講師として着任。90年同教授。97年同教授。2018年より本学名誉教授。

宝重光章(教育研究功労)、村瀬信也(名誉功労)、私市正年(名誉功労)、瑞宝小経(日アルジェリア学術交流功労)を受章した。

1943年生まれ。72年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程を修了。93年4月に本学法学部教授として着任。2014年より本学名誉教授。

97年から98年まで法学部国際関係法学科長、01年から03年まで法学研究科委員長および同法律学専攻主任を務めた。専門は国際法、国際環境法。

01年から05年まで外国語学部アジア文化研究室長および同アジア文化副専攻主任、08年から09年まで研究機構常設研究部門長。11年から13年までグローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻主任を務めた。専門はアルジェリア・ナショナルリズム研究、マガリア・イスラム運動研究。

同フォーラムは1995年より開催されているが、未来を担う学生の考

「アジアの未来」では、アジア大洋州地域の政治・経済・学界のリーダーが集い、域内のさまざまな問題や世界の中でのアジアの役割について率直な意見交換が行われている。



権准教授(上段右端から2番目)とゼミ生

初日には、シンガポールのローレンス・ウォン副首相や、ベトナムのチ

5月25日・26日に日本経済新聞社主催の「アジアの未来」が都内で開催され、アカデミックパートナーとして協賛している本学からも、教員がパネルディスカッションに登壇したほか、在学生7人が会場にてその様子を聴講した。

教職員や学生がアジアへの理解を深める

「アジアの未来」では、アジア大洋州地域の政治・経済・学界のリーダーが集い、域内のさまざまな問題や世界の中でのアジアの役割について率直な意見交換が行われている。

第19回 上智大学国連 Weeks June 2023 6月1日(木)～24日(土)	
シンポジウム 6/1(木)	国連専門機関の役割と日本の取組み
シンポジウム 6/3(土)	NAGASAKIから世界へ「平和を」 -被爆医師 永井隆と妻 緑からのメッセージ-
シンポジウム 6/5(月)	国連改革は可能か
シンポジウム 6/8(木)	SDGs中間地点での評価と今後の課題
講演会・ ワークショップ 6/12(月)	国際機関・国際協力 キャリア・ワークショップ
シンポジウム 6/14(水)	日本、イスラム協力機構(OIC)、イスラム開発銀行(IsDB)、国連の協力で、アフガン支援をどう進めるか
パネル・セッション 6/23(金)	北東アジアにおける未来の平和に関する若者の提言
シンポジウム 6/24(土)	持続可能な未来に向けた「学びの共同体」

に参加し、「多様性を認め合う社会を作るためには、自分らしさを追求する姿勢を尊重できるような環境が必要」と話し、誰もが暮らしやすい日本社会を実現する重要性を強調した。

フォーラム2日目にマニエル・アモロス名誉教授は、「本イベントには、本学の学生や教職員らも多くのオンラインで聴講し、成長の中心であるアジアの役割について多角的な議論が行われた。本イベントには、本学の学生や教職員らも多くのオンラインで聴講し、成長の中心であるアジアの役割について多角的な議論が行われた。」

*各イベントの詳細および参加申込みは、QRコードまたは 下記URLからご確認ください。
https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/program/UNWeeks.html

